

看護学原論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ フローレンス・ナイチンゲールについて調べ、関心を持って臨む。
- ・ 演習を進めやすくするために「看護覚書」を一通り読んでおく。

科目全体のねらい・授業目標

「看護覚書」を読み解き、看護であることと看護でないことの理解を深めながら、人々の健康と生活環境が深く関連(連関)していることを理解する。また、フローレンス・ナイチンゲールの人物像に触れ、未来の看護師像を描きながら、対象を支える看護師の責務と思考過程を学習する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。
7. 社会情勢に目を向け、自己の課題を追求し続けることができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	健康と生活；健康の定義、個別の健康観と生活の関連がわかる	講義・演習
2	F, ナイチンゲールの生き立ちと業績を知り看護とは何かを深める 看護覚え書：「看護一般」「健康一般」の概念について知る	講義・演習
3・5	F, ナイチンゲール「看護覚え書」を科学的根拠に基づき分析する	演習
6	「看護覚え書」の分析内容を共有する	発表
7	「看護覚え書」観察・補章について理解し看護観につなげる	講義・演習
8・9	看護の目的；概念を理解する (病気一般、健康一般、看護一般、生活一般、人間一般)	講義
10・11	看護の対象；統一体としての人間(共通性と特殊性)を知り、「こころ」と「からだ」と社会関係の側面から考える	講義
12・13	看護の対象；事例演習(視覚障がい者)から生活者のとらえ方や関わり方	講義・演習
14	看護の方法；知的な関心、こころのこもった人間的な関心、技術的関心を注ぐとは何かを知る	講義
15	専門職としての看護；看護の変遷、チームにおける看護師の役割と機能を知る 筆記試験	講義・評価

事後学習内容

長期休暇課題；「看護の原点を求めて」を読み、自己の考えをレポートにまとめる。

評価方法

課題レポート、筆記試にて評価する。

テキスト

看護学概論、ナースが見る病気、科学的看護論、看護の原点を求めて

呼吸・循環を整える技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ 指定されたテキストの学習と動画の視聴を行う。
- ・ 対象患者の理解を深めるための学習。

科目全体のねらい・授業目標

細胞の生命維持には酸素が絶えず循環していることが必要不可欠であり、呼吸・循環が障害された人は重篤になれば生命の危機的状況にも直結する。そのため患者の身体的・心理的苦痛に配慮しつつ、呼吸・循環の状態を把握し、状態を維持・改善する技術が求められる。また、これらの技術に用いる機器の基本的原理や使用目的、使用方法が分かる必要がある。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	共通基本技術（観察とは何か） 健康にとって、循環・呼吸・体温とはなにか、正常値・異常値の理解	講義
2	共通基本技術（計測から発育・体力の状態を知る） 身長・体重・腹囲・体脂肪・対光反射・肺活量	講義、校内演習
3-5	共通基本技術（正常との比較） 血圧・体温・脈拍・呼吸測定の実施、安静時と運動直後の比較、体位の比較	校内演習
6-7	共通基本技術（記録と報告） 記録・報告時の留意点、対象に合わせた技術の実施と記録・報告	講義、校内演習
8	呼吸の目的とは 呼吸と循環を整える技術に必要な知識 呼吸と体位の関係	講義
9	呼吸一循環を整える援助技術 体位ドレナージ、温罨法と連罨法の実施と観察	校内演習
10-11	呼吸一循環を整える援助技術 一時的吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引）の実施と観察 KYTから口腔内吸引に潜むリスクと具体策を検討する	校内演習
12	呼吸循環を整える援助技術 酸素吸入の実施と観察、アウトレットと酸素ボンベの扱い方と注意点 KYTから酸素吸入を始める際に潜むリスクと具体策を検討する	校内演習
13-14	事例を通して必要な援助を検討し実施する 「COPD増悪で入院した患者」への援助 一時的吸引、酸素投与、罨法、体位調整、環境調整を3つの場面の中で実施する	校内演習
15	筆記試験 実技試験	評価

評価方法

筆記試験、実技試験、姿勢にて評価する

テキスト

基礎看護技術 I・II, 解剖生理学, ナースが見る人体

運動-休息を整える技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ 指定されたテキストの学習と動画の視聴
- ・ 対象患者の理解を深めるために必要な知識（自己課題）

科目全体のねらい・授業目標

疾病・疾患などにより日常生活動作に支障をきたすことで、これまでの生活を維持することが困難となつた患者の、もてる力を最大限に働かせながら生活を整えるための技術を学び、生活体としてのその人らしさとは何かが分かる。また、休息の必要性と健康的な環境づくりの必要性が分かり、患者の心理的安定と安全確保のための技術を学ぶ。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	運動一休息の理解 健康にとっての環境とは何か、人が環境から受ける影響とは、環境調整技術の基礎知識	講義
2-3	ベッド回りの安全 「安全な患者の環境」についての視点と対象に合わせた環境整備の実際（危険予測と対象の個別性）	校内演習
4	病床環境を整える ベッドメイキングの実際、臥床患者のシーツ交換の実際 ＊ボディメカニクスの理解と活用	校内演習
5	運動・休息を整えるために必要な知識と技術 ＊健康にとって運動一休息とは ＊ボディメカニクス ＊体位変換の基礎知識	講義
5-6	褥瘡予防 褥瘡好発部位、アセスマント、体圧測定、体圧分散のための器具の活用方法	校内演習
7-8	床上移動および体位変換 上方移動、水平移動の実施、仰臥位から側臥位の実施、側臥位から仰臥位の実施 ＊ボディメカニクスの理解と活用	校内演習
9-10	基本的体位とポジショニング 仰臥位、側臥位、腹臥位、シムス位、半座位、端坐位、長坐位、起坐位 ＊対象に合わせた体位変換とポジショニング	講義・校内演習
12-13	移動・移送の援助技術 仰臥位から車いすへの移乗および移送、ストレッチャーへの移乗及び移送の実施、歩行介助、補助具を使用した歩行の介助の実施 ＊危険予測と安全への配慮（対象・環境・看護者） ボディメカニクスの理解と活用	講義・校内演習
14, 15	休息を整える援助技術：つぼ、指圧のポイントと実際	校内演習

評価方法

筆記試験、実技試験、姿勢にて評価する

テキスト

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学、ナースが見る人体、基礎・臨床看護技術

食・排泄を整える技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- 指定されたテキストの学習と動画の視聴を行う。
- 対象患者の理解を深めるための学習。

科目全体のねらい・授業目標

食物を消化吸収し、不要物を排出する嘔みはからだに備わった自然の働きであり、生命を維持するうえで必要不可欠である。疾病・障害などの理由で食事・排泄が困難となった患者のもてる力を、健康の段階に合わせて最大限に働かせながら生活を整えるための援助技術を学ぶ。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。
- 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	健康にとっての食・排泄援助の意味 健康にとって食・排泄とは何か、嚥下機能の観察とアセスメントの視点 排泄の観察とアセスメントの視点	講義
2-3	シミュレーション演習(食事介助) 事例患者を通して看護介入の必要性を理解し実施する その場に潜む危険要因の検討と実施(口腔ケア、食事介助、とろみ茶の作成)	校内演習 グループワーク
4-12	食と排泄を整える技術(共同学習) 胃管挿入、経管栄養、導尿準備、導尿実施 援助をうける患者の思いを考え、自らの姿勢・態度を検討する	校内演習 グループワーク 評価
13	対象に合わせた方法で排泄を整える 排便機能障害の種類と特徴、排便時の努責が循環系に及ぼす影響	講義
14-15	食と排泄を整える技術 グリセリン浣腸法の注意点の理解と実施、床上排泄 (便器使用の際の体位と配慮)	校内演習 グループワーク

評価方法

筆記試験、実技試験、姿勢にて評価する

テキスト

基礎看護技術 I・II, 解剖生理学, ナースが見る人体, 基礎・臨床看護技術

清潔を整える技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ 指定されたテキストの学習と動画の視聴を行う。
- ・ 対象患者の理解を深めるための学習。

科目全体のねらい・授業目標

疾病・障害などの理由によって、普段通りの清潔・衣生活の維持が困難となった患者のもてる力を、健康の段階に合わせて最大限に働かせながら、清潔を整えるための援助技術を学ぶ。また、患者の思いを追体験し、心理・精神面に配慮することの大切さを学ぶ。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力をひき出す看護援助ができる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え方・行動できる。
7. 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	生活や健康にとっての清潔・衣援助の意味 健康にとって清潔・衣とは何か、清潔援助に必要なアセスメントの視点 衣生活の援助に必要なアセスメントの視点 清潔援助がからだに与える影響	講義
2-4	対象に合わせた方法で寝衣・シーツ交換を行う 臥床患者への寝衣・シーツ交換、原理の活用と原則の理解	校内演習
5	シミュレーション演習 対象の状況を観察し、清潔と衣に対する看護の必要性を考える 対象に合わせた全身清拭の方法を考え実施し、原理・原則との関連を理解する	演習 グループワーク
6-9	対象に合わせた方法で全身清拭を行う 臥床患者への全身清拭、原理の活用と原則の理解	校内演習
10	対象に合わせた方法で足浴・手浴を行う 臥床患者への足浴、手浴 原理原則の活用と原則の理解	校内演習
11-12	対象に合わせた方法で洗髪を行う 臥床患者への洗髪、原理原則の活用と原則の理解	校内演習
13-14	対象に合わせた方法でおむつ交換・陰部洗浄を行う 臥床患者へのおむつ交換・陰部洗浄、原理原則の活用と原則の理解	校内演習
15	シミュレーション演習 対象の状況を観察し、清潔に対する看護の必要性を考える 健康の段階に合わせた清潔の方法を考え陰部洗浄とおむつ交換を実施	演習 グループワーク

評価方法

筆記試験、実技試験、姿勢にて評価する

テキスト

基礎看護技術 I - II, 解剖生理学, ナースが見る人体, 基礎・臨床看護技術

治療を支える技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前・後期	

事前学習内容

- ・ 指定されたテキストの学習と動画の視聴を行う。
- ・ 対象患者の理解を深めるための学習。

科目全体のねらい・授業目標

感染予防のための技術など対象者の治療過程を促進するための基本的技術を学ぶ。看護師としての責任を自覚し、対象者の心理や倫理から対象者と向き合う姿勢についても考える。また、医療安全の側面からリスク感性を磨くきっかけとしたい。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	感染予防の意味と手段 感染・感染症の概念、感染経路とその予防対策 スタンダードプリコーション、洗浄・消毒・滅菌、感染性廃棄物について	講義
2	スタンダードプリコーションの実施 衛生学的手洗いの方法と行うべきタイミング、洗い残しの多い部位 個人防護用具の着脱の順番と根拠（エプロン、マスク、フェイスシールド、手袋）	校内演習
3	滅菌手袋の着脱の実施 無菌操作とは、滅菌物の状態の確認と環境の確保	校内演習
4	滅菌物の取り扱い 滅菌パック・滅菌包装の開け方、鑷子の取り扱い、ガーゼの取り扱い	校内演習
5	消毒法 消毒薬の取り出し方、受け渡し、皮膚消毒の実施	校内演習
6	看護にとっての診断・治療の意味 看護にとって診断、治療とは何か、対象者の心理、倫理について 医師、看護師の役割	講義
7	検査・診療時に必要な知識 検体の取り扱い（尿、便、痰、血液）、検査介助時の基礎知識 与薬の基礎知識と観察の視点（医療安全の視点も含む）、与薬の援助方法	講義・校内演習
8	注射薬の準備 無菌操作での注射器、準備、薬液の吸い上げ（アンプル・バイアル） 行動の意味と根拠、危険予測	校内演習
9-10	注射の技術 1 筋肉注射・皮下注射の実施と観察、行動の意味と根拠、危険予測 対象者の心理、倫理	校内演習
11-12	注射の技術 2 静脈内注射の実施と観察、行動の意味と根拠、危険予測 対象者の心理、倫理、点滴静脈内注射の管理	校内演習
13	静脈血採血の技術（赤血球沈降速度） 採血の実施、危険予測、対象者の心理、倫理	校内演習
14	内服薬介助の実施と観察	校内演習
15	筆記試験 実技試験	評価

評価方法

筆記試験、実技試験、姿勢にて評価する

テキスト

基礎看護技術 I・II、解剖生理学、ナースが見る人体
専門分野

看護過程を展開する技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 事例を理解するために必要な知識を学習する
- ・ 「何がなぜ看護の情報なのか」を読む

科目全体のねらい・授業目標

看護過程展開モデル図の内容面にそって学習事例の看護過程をたどり、看護過程展開の理解を深める

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護過程とは:看護の目的、健康一般、病気一般、看護の過程的構造の理解 事例「脳梗塞を患う対象」を通して、看護過程展開を理解する	講義
2	関連図を作成し、正常-発症-検査-治療の経過を理解する	講義・演習
3	事例の理解： 立体像から対象の特性を理解し、強みを見出す (第一の関心)	講義・演習
4	事例の理解： 医師の治療方針を理解し、看護の方向性を定める。 (第一の関心) 回復を支えるための生物体の必要条件を考える。	講義・演習
5	事例の理解： 第二の関心を注ぐことの大切さ (第二の関心) 日常生活の規制に対する対象の反応を観念的に追体験する。	講義・演習
6-7	事例の理解： 患者情報からアセスメントし、看護上の問題を明らかにする (第三の関心) 看護上の問題①～⑥の類別	講義・演習
8	事例の理解： 看護目標の優先度の選択と計画立案 (第三の関心) 看護の評価とは (SOAP)	講義・演習

評価方法

グループワーク、課題資料

テキスト

科学的看護論 何がなぜ看護の情報なのか 解剖生理 ナースが見る人体・病気

フィジカルアセスメント

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 指定されたテキストの学習と動画の視聴
- ・ 既習のバイタルサイン測定技術の復習

科目全体のねらい・授業目標

- ・患者の身体の症状や徵候から、必要な情報を得るための手段や手技を理解し用いることで、状態や緊急性の有無を判断し、必要な援助を考えることができる。

教育目標との関連

3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1-3	フィジカルイグザミネーション ・フィジカルイグザミネーションの共通技術 ・部位別のフィジカルアセスメント（胸部、腹部 等）	講義、演習
4	フィジカルアセスメント ・フィジカルアセスメントとは ・意義との目的	講義
5-7	フィジカルアセスメントの活用 ・シミュレーションの中でフィジカルアセスメントをして患者の状態を把握する。 ・患者の状態を把握し対応、報告	演習・グループワーク
8	評価	

評価方法

グループワーク、レポート、実技試験にて総合的に評価する

テキスト

基礎看護技術 I 、基礎・臨床看護技術、フィジカルアセスメントブック

健康生活を支える看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ 他者に关心を持つとはどういうことかを日常生活の体験から理解する
- ・ 健康な生活とは何かを思惟する

科目全体のねらい・授業目標

個人に備わった生きる力は、生活の場の条件によって大きな影響を受けるうえに、健康状態は常に揺れ動く。そこで、個人の健康状態に応じた生活支援を通して、健康の法則一看護の法則を理解する。支援する上で、個人に合わせたコミュニケーションの必要性と基本的な方法を学習する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
7. 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1, 2	コミュニケーションとは 言語的・非言語的コミュニケーション、面接技法	講義・演習
3	ライフサイクル・生活の特徴と健康障害の関連、 健康の法則一看護の法則を意識し、対象を全人的にとらえる	講義・演習
4	健康支援の導入 対象の健康問題の把握とビジョンを描く	演習
5	健康支援までの学習・活動計画 ゴール達成への学習活動計画の立案	演習
6	健康支援までのプロセス 問題解決に向けた情報リサーチと新たな問題発見への取り組み	演習
7	健康支援の実際 支援活動に関わる資料のパラグラフ化、パンフレット作成	演習
8	健康支援活動の振り返り、自己の成長確認	

事後学習内容

活動報告によって得た助言内容を整理する

評価方法

活動資料、発表資料、プレゼンテーションにて評価する

テキスト

ナースが見る病気、科学的看護論

参考テキスト

鈴木敏江著「課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」

健康障害時の看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ 学習事例を理解するために必要な解剖生理、生化学を復習してのぞむこと
- ・ 学習事例を理解するために必要な病気・治療に関する知識を予習してのぞむこと

科目全体のねらい・授業目標

事例患者が持つ病気のタイプはどのような生活の結果から発症に至ったのか、どのような生活の仕方がよりよい回復に向かうかを考え、患者の認識に寄り添いながら方向性を描くための基礎を理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。
6. 社会情勢に目を向け、自己の課題を追求し続けることができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	代謝機能に障害を持つ患者の理解 必要な知識の整理(活動に必要なエネルギー代謝の理解)	講義
2, 3	代謝機能に障害を持つ患者の理解 対象を全人的にとらえ、看護の視点で生活特徴を把握する 対象の特性を大づかみにとらえ、関心を注ぎながら対象の持てる力を探る	演習
4, 5	代謝機能に障害を持つ患者の理解 対象に必要な看護を想像しながら、看護の方向性を描く 対象の健康問題が快方に向かうための生物体の必要条件を表現する	講義・演習
6	消化・吸収機能に障害を持つ患者の理解 必要な知識の整理(生命・生活の源である栄養吸収の理解)	講義
7, 8	消化・吸収機能に障害を持つ患者の理解 対象を全人的にとらえ、看護の視点で生活特徴を把握する 対象の特性を大づかみにとらえ、関心を注ぎながら対象の持てる力を探る	演習
9, 10	消化・吸収機能に障害を持つ患者の理解 対象に必要な看護を想像しながら、看護の方向性を描く 対象の健康問題が快方に向かうための生物体の必要条件を表現する	講義・演習
11	循環機能障害を持つ患者の理解 必要な知識の整理(活動に必要なエネルギー代謝の理解)	講義
12, 13	循環機能障害を持つ患者の理解 対象を全人的にとらえ、看護の視点で生活特徴を把握する 対象の特性を大づかみにとらえ、関心を注ぎながら対象の持てる力を探る	演習
14, 15	循環機能障害を持つ患者の理解 対象に必要な看護を想像しながら、看護の方向性を描く 対象の健康問題が快方に向かうための生物体の必要条件を表現する	講義・演習

評価方法

個人課題、グループ課題にて評価する

テキスト

患者理解への看護の視点、事例に関連するテキスト

看護研究の基礎

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	3年次 前期	

事前学習内容

2年次後期から3年次前期の臨地実習では、目的意識をもって受け持ち患者の看護を実践すること。そのうえで、自己の看護実践を三重の関心の視点で振り返った資料を整理しておくこと

科目全体のねらい・授業目標

看護研究が看護実践を通して生じた疑問に解決の方向性を見出そうとする頭脳活動であることを理解し、自己の看護実践を研究的にとりあげながら看護の研究方法論を理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1.	看護研究の意義と倫理上の留意点 看護実践と看護研究の関連、具体例から看護研究の全体を知る	講義
2.	研究素材の作り方と分析の仕方を知る 研究素材の条件を知り、自己の看護実践を素材化する 看護の原基形態にそって科学的抽象を行うプロセスを学ぶ	講義・演習
3.	研究計画書作成、研究論文のまとめ方 背景、研究目的、研究方法を記述する	講義・演習
5.	素材化した看護実践の分析指導 各担当教員による直接指導	講義
6. 7	自己のテーマに沿って文献検索ができる	演習
8.	学校行事「レポート発表会」で論文を発表する	評価

事後学習内容

レポート発表会：研究計画書に沿って論文をまとめ、プレゼンテーションする

評価方法

論文、看護実践の分析、使用文献、プレゼンテーションにて総合的に評価する

テキスト

講師資料

参考テキスト

看護研究、科学的看護論、患者理解への看護の視点

地域・在宅看護概論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ 社会保障制度について学習し臨む
- ・ どのような医療・福祉サービスがあるか、その特徴を調べて臨む

科目全体のねらい・授業目標

あらゆる年代の疾病・健康障害のある人々やそのリスクの高い人々とその家族、コミュニティに対して、生活の場で提供する看護の意味を理解できる

教育目標との関連

- 1 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
- 2 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる
- 3 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
- 5 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	人々の暮らしを理解したうえで、地域・在宅看護の意味、地域・在宅看護が重視される社会的背景を理解できる (グループワーク)	演習
2	暮らしとは何かを改めて考え、地域・在宅看護とはどのような看護か、またその求められる役割を知る	講義・演習
3	暮らしの中で生じる健康問題とその影響と健康の多様性をとらえる看護の視点を考える	講義・演習
4	暮らしは地域の特性に大きな影響を受けている事を理解し、「地域共生社会」および「地域包括ケアシステム」の具体的なイメージを持つ事ができる (グループワーク・発表)	講義・演習
5	地域・在宅看護の対象者のライフステージの特徴と多様性を理解し、対象者はさまざまな健康レベルにあることを理解できる	講義・演習
6	地域・在宅看護の対象として家族の捉え方と家族看護の必要性が理解できる (グループワーク/発表)	講義・演習
7	家族アセスメントのポイントがわかり、事例をもとに家族看護について述べることができる	講義・演習
8	「暮らしを支える看護」とは何かを具体的にイメージし、看護の役割を理解する	講義
9	ライフステージにある人々の特徴を理解し、ライフステージに応じた看護の役割が理解できる	講義・演習
10	在宅看護における危機管理と在宅療養の場におけるリスクの特徴を理解できる（災害含む）	講義
11	地域・在宅看護にかかる法制度を知り、実践に活かす活用方法を考えることができる	講義
12	事例から、連携して働く医療福祉専門職の役割を理解し、多職種連携の中で看護師に求められる役割について考えることができる	演習
13	訪問看護の制度を理解する/事例からケアマネジメントと社会資源の活用を考える (グループワーク/発表)	講義・演習
14	地域保健・高齢者・障害者・難病に関する法制度を理解できる	講義
15	評価/単位認定試験	筆記試験

評価方法

筆記試験、演習課題内容、参加姿勢を総合的に評価する

テキスト

「地域・在宅看護の基盤」医学書院

在宅医療ケア

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 在宅で必要な医療処置（酸素吸入・中心静脈栄養・経管栄養・人工呼吸器・腹膜透析膀胱留置カテーテル）の基礎知識を学習したうえで臨む

科目全体のねらい・授業目標

医療依存度の高い療養者とその家族の思いに寄り添いながら、必要な医療ケアを安全に行い、安心して「自分らしい」療養生活を営めるための援助方法と管理・指導について理解できる

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え方行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に發揮される看護援助ができる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	在宅での医療処置の現状と安全の確保（医療機器と環境整備・医療廃棄物・災害対策・感染対策）について看護師の役割を理解できる	講義
2	在宅における医療処置の支援・看護（在宅支援チームの連携・医療機器や衛生材料管理・倫理等）について理解できる	講義
3	在宅での服薬管理方法について理解できる	講義・演習
4	在宅中心静脈栄養法の適応と管理について理解できる	講義・演習
5	在宅経管栄養法の種類、起こりやすいトラブルと対処法、管理・指導について理解できる	講義・演習
6	膀胱留置カテーテルの管理・指導と膀胱洗浄の目的・適応・方法を理解できる	講義・演習
7	在宅酸素療法の定義と適応を理解し、管理・家族指導の要点をまとめる	講義・演習
8	非侵襲的人工呼吸法の定義と適応を理解し、体験から療養者の思いを理解できる	演習
9	侵襲的人工呼吸法と吸引（口腔・鼻腔・気管内）の管理と家族指導について理解できる	講義・演習
10	腹膜透析療養者の管理・指導について理解できる	講義
11	脳血管疾患療養者と家族への支援（自立支援・社会資源活用） 状況設定からのアセスメント	演習
12	難病療養者と家族への支援（社会資源と在宅ケアシステムの重要性） 状況設定からのアセスメント	演習
13	ターミナル期の療養者と家族への支援（症状コントロール） 状況設定からのアセスメント	演習
14	災害に対する事前準備と災害時の対応（災害急性期～復興期）を理解できる	講義
15	評価	筆記試験

評価方法

筆記試験・演習課題内容と参加姿勢にて総合的に評価する

テキスト

医学書院 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践

在宅療養ケア

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 食事、排せつ、清潔、移動・移乗に関する基礎看護技術を復習したうえで臨む
- ・ 本時のテーマにあわせた事前課題

科目全体のねらい・授業目標

在宅看護の基本姿勢・態度を身につけ、基本的な技術を応用、創意工夫し、療養者や家族のもてる力を最大限引き出し、生活の質がより高められるような援助を提供できる技術が身につく

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に発揮される看護援助ができる
7. 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる
8. 厚生連の一員としてセルフマネジメントができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	病院と在宅生活の違い、在宅看護をするための心構えと求められる役割 対象と家族の生活過程や価値観を考える	講義・演習
2	在宅における食を整える援助を考える 在宅療養の場における食生活の特徴 食に関するアセスメント 援助の技術と実際 事例に合わせた方法を検討する 食べ続けるためのリスク管理	講義・演習
3	在宅における排泄を整える援助を考える事ができる 在宅療養の場における排泄の基本 排泄のアセスメント 排泄援助の技術と実際 事例に合わせた方法を検討する 社会資源の活用と調整	講義・演習
4	在宅における清潔を整える援助を考える事ができる 在宅療養の場における清潔と更衣の特徴 清潔ケアと更衣のアセスメント 清潔ケアの技術と実際 事例に合わせた方法を検討する 社会資源と多職種連携	講義・演習
5	訪問時の面接技術・訪問時のマナー 初回訪問のシミュレーション	講義・演習
6, 7	福祉用具に関する制度と活用『なごや福祉用具プラザ』体験	演習
8	評価	筆記試験

評価方法

筆記試験、レポート、演習課題内容と参加姿勢を総合的に到達度を認定して評価する

テキスト

医学書院 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤、2 地域・在宅看護の実践

地域生活支援

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 介護保険制度、地域包括ケアシステムについて学習し見学実習に臨む
- ・ 社会資源と社会資源の活用方法について学習し見学実習に臨む

科目全体のねらい・授業目標

何らかの疾病や障がいをもちながら地域で暮らす人々の思いを尊重し、その人なりの健康保持増進と質の高い生活を送るための、健康サービスや社会的サービスを含む幅広いケアと支援の必要性が理解できる

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる
7. 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たす事ができる
8. 厚生連の一員としてセルフマネジメントできる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	導入/施設見学・体験のねらいを理解し自己目標を明確にできる	講義
2～5 1日目	<見学目的> 地域の特性や健康問題を知り、地域包括ケアシステムの中で、その人なりの、健康の保持増進と質の高い生活を送るための多様な支援の必要性が理解	
6～9 2日目	1. 生活していく上での課題解決のために必要な、地域における社会資源の活用方法や保健・医療・福祉の連携と調整の必要性を理解する 2. 地域包括ケアシステムの中で多職種と連携・協働する上で、看護専門職者の果たす役割を理解する	
10～13 3日目	<見学方法> ・挨拶・自己紹介をし、一日の目標を述べる ・オリエンテーションを受ける ・3日間ローテーションしながら各施設の業務内容・計画に沿って見学・実施・参加する ・15:30～16:00ショートカンファレンス（一日の振り返り） ・施設見学・体験記録用紙を用いて、一日の振り返りをする（自宅学習）	演習 施設見学・ 体験
14	3日間の振り返りとプレゼンテーション準備	演習
15	発表 /まとめ /「施設見学・体験からの学び」レポート（自宅学習）	講義・演習

評価方法

「施設見学・体験からの学び」レポート、発表内容、参加姿勢を総合的に評価する

テキスト

医学書院 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤、2 地域・在宅看護の実践

医学書院 社会保障・社会福祉

地域健康支援

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	3年次 後期	

事前学習内容

居住地について調べる

- ・居住市町村の環境、社会的環境、年齢構成、産業など地域の特徴
- ・居住市町村の保健事業にはどんなものがあるか(対象者や事業の内容など)

科目全体のねらい・授業目標

あらゆる健康段階の人々が、障がいの有無に関わらず、より健康に、よりその人らしく暮らし続けるための地域保健活動について、市町村で実施されている事業と制度と関連させて理解できる。
地域保険における看護の役割を説明できる

教育目標との関連

- 1 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
- 2 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる
- 5 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、他職種と連携できる
- 8 厚生連の一員としてセルフマネジメントできる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	地域における看護の対象	講義・演習
2	身近な地域の特徴と保健事業	講義
3・4	グループ学習 地域住民とその人なりの健康を維持し生活するための施策と法律①	演習
5・6	グループ学習 地域住民とその人なりの健康を維持し生活するための施策と法律②	演習
7	グループ発表と共有	講義
8	評価	筆記試験

評価方法

筆記試験・グループワークの内容と参加姿勢を総合的に評価する

テキスト

公衆衛生がみえる(メディックメディア)
社会保障・社会福祉 看護学概論 地域・在宅看護の基盤(医学書院)
看護・医療を学ぶ人のための よくわかる関係法規(学研)

在宅看護過程

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 看護過程とは何かを復習する
- ・ 事例の疾患について学習する(病態、症状、たどる経過、看護)

科目全体のねらい・授業目標

療養者とその家族の望みをかなえるため、対象の生命や健康とQOLを維持・向上させる双方の側面から、思いを尊重した看護展開ができる

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に発揮される看護援助ができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護過程の復習	演習
2	在宅看護過程の特徴	演習
3	事例から全体像と在宅看護過程を理解する①	演習
4	事例から全体像と在宅看護過程を理解する②	講義
5	筋萎縮性側索硬化症の在宅療養者の看護過程①	演習
6	筋萎縮性側索硬化症の在宅療養者の看護過程①	演習
7	筋萎縮性側索硬化症の在宅療養者の看護過程②	演習
8	筋萎縮性側索硬化症の在宅療養者の看護過程②	演習

評価方法

レポート、演習内容と参加姿勢を総合的に評価する

テキスト

医学書院 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践

薄井坦子 何がなぜ看護の情報なのか ナースが見る人体

成人特性論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- ・前回の授業内容について、復習しておくこと
- ・指定したテキストの範囲を事前に読んでおくこと

科目全体のねらい・授業目標

- ・第2の人生を歩む成人期にある対象の特徴と成人看護の機能・役割を理解する。
- ・成人期に特徴的な健康問題とそれらが社会生活に及ぼす影響、健康を支援するための看護の役割を理解する。
- ・成人看護学で用いられる看護理論や基本的なアプローチの方法を理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に引き出す看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	成人の概念、ライフサイクルにおける成人期、成人看護の機能・役割	講義
2, 3	成人各期（青年期・壮年期・高齢期）の特徴	演習
4	成人の発達理論と発達課題、成人各期の健康問題の特徴	講義
5	生活状況からみた成人の特徴、家族・社会における成人の役割、家族形態の特徴とその変化	講義
6	成人を取り巻く環境、成人の生活と健康、成人の健康の状況（受療状況、死亡の動向）、成人の健康の捉え方	講義
7, 8	現代の成人の生活習慣、生活習慣に関連する健康問題と予防 皮下脂肪・体脂肪測定	演習
9	就業や労働形態の変化がもたらす健康問題と防護方法	講義
10	生活ストレスに関連する健康問題と対処方法	講義
11	成人の生活と健康を守りはぐくむ法律・政策（健康増進・生活習慣病対策）	講義
12	ヘルスプロモーションの施策の変遷、わが国のヘルスプロモーション活動、予防の概念	講義
13	健康状態に応じた成人への看護アプローチ 急性期・社会復帰に向けた看護（危機理論、障害受容）	講義・演習
14	健康状態に応じた成人への看護アプローチ 慢性病との共存を支える看護（病みの軌跡、エンパワメント、セルフケア、自己効力）	講義・演習
15	成人への看護アプローチ アンドラゴジー	講義・筆記試験

評価方法

筆記試験、グループワークにて評価する

テキスト

成人看護学総論

急性期看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前期	

事前学習内容

- 手術侵襲と生体の反応については、事前に学習した上で受講する。
- 各機能障害に関連する人体の構造・機能、疾病、検査、治療について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 周手術期の看護を通して、患者の生体に及ぼす影響や侵襲からの回復過程、手術療法を受ける患者の心理について学習する。また、様々対象の中で、特に老年や小児は手術侵襲を大きくうけるため、術後合併症を生じやすく回復過程も遅延しやすい。手術療法を受ける老年期や小児期の手術後の特徴についても合わせて学習する。手術療法に伴うボディイメージの変化に対する看護、回復を促進する看護、社会活動をしながら治療を継続するための看護について学習する。さらに、救急看護では急激に健康破綻をきたした患者に対する命を最優先にした看護について学習する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	麻酔の種類と合併症、手術侵襲と生体反応	講義
2	術前の看護：手術の意思決定への援助、術前処置、術前訓練、手術療法の理解を促す援助[術前オリエンテーション]	講義・演習
3	術中の看護：体温管理、褥瘡予防、感染予防、事故防止、手術室の安全管理、手術室の環境管理	講義
4	術後の看護：術後合併症予防、術後の疼痛管理、創傷管理、ドレーンの管理	講義・演習
5	周手術期に必要な看護援助（術後の病床環境の整備）	演習
6, 7	集中治療を受ける患者の看護（集中治療の目的、クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴と看護、クリティカルケアにおける看護師の役割と多職種連携）	講義・評価
8	ムーアの分類、術後合併症（循環器系、呼吸器系、神経系、消化器系、内分泌・代謝系、腎・泌尿器系の合併症）の予防、栄養管理法（体液管理と輸液、栄養管理）	講義・演習
9	食道再建術・胃切除術・肝切除術を受ける患者の看護（合併症予防と生活指導）	講義
10	胆のう摘出術・腹腔鏡下手術・脾臓切除術・肺切除術・胸腔鏡下手術を受ける患者の看護	講義
11・12	腸切除術・人工肛門造設術・低位前方切除術を受ける患者の看護 事例演習（合併症予防と生活指導）	講義
13	乳房切除術を受ける患者の看護（合併症予防と生活指導）	講義・試験
14	救急看護（救急処置を必要とする患者・家族の特徴と看護、看護師の役割と多職種連携）	講義・演習
15	救急看護（ショックへの処置、応急処置と看護[外傷、熱傷、中毒など]）	演習・筆記試験

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、救急看護学、クリティカルケア看護学

がん看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 後期	

事前学習内容

- ・がん治療（化学療法・放射線療法）の副作用については、事前に学習した上で受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- ・今後、看護師が臨床でがん患者と関わる機会はますますふえることが考えられる。社会的役割の大きい成人期の患者では、仕事や家庭での社会生活を営みながら治療を継続する人も多くなっている。そこで、この科目ではがんとともに生きる患者の心理やがん治療を受ける患者の看護、退院後の生活を見据えた関わり、がん医療における多職種連携ならびに終末期の看護について学習する。

教育目標との関連

- 1 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 2 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 3 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 4 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。
- 5 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	がん患者の看護 (がん患者とその家族の特徴と看護、がん患者の抱える苦痛、がん看護における看護師の役割)	講義
2	がん医療における専門職連携 がん医療における倫理的課題とアプローチ（意思決定支援）	講義・演習
3	治療（放射線療法）を受ける患者の看護 (放射線療法の目的・特徴と防護対策、放射線療法の副作用に対する援助 [全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処])	講義
4	終末期看護の特徴、終末期における看護の役割・機能、終末期にある患者とその家族の特徴と看護、緩和ケアの目的・特徴、緩和ケアを受ける対象の理解	講義
5	症状マネジメントと看護（症状に対するケアの方法）、緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義・演習
6	がん患者の療養の場における看護（外来・在宅・緩和ケア病棟/ホスピス病棟における看護）、がん患者の療養の場の移行支援	講義
7	外来におけるがん看護（抗がん薬投与時の管理[暴露対策]、化学療法の副作用に対する援助 [全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処]）	講義
8		筆記試験

評価方法

筆記試験・レポートにて評価する

テキスト

がん看護学、緩和ケア

成人臨床看護 I

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能、疾病、検査、治療について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 呼吸・循環・造血機能は人間が生きていくために必要不可欠な機能である。そのため、機能障害により生命の危機的状況に陥ったり、ライフスタイルの変更を余儀なくされることもある。また、成人期にある対象は社会的な役割も大きいため、治療を継続しながら社会生活を営むことも少なくない。そこで、この科目では機能障害をもつ成人の特徴とこれらの機能障害が成人期にある対象の生活に及ぼす影響、機能障害に応じた看護の方法を理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	肺炎・自然気胸患者の看護	講義
2	気管支喘息患者の看護	講義
3	慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義
4	肺がん患者の看護 (気管支鏡検査・胸腔穿刺・胸腔ドレナージ・肺生検を受ける患者の看護)	講義・演習
5	肺がん患者の看護 (肺切除術を受ける患者の看護)	講義・筆記試験
6	高血圧・大動脈解離患者の看護	講義
7	不整脈患者の看護 (ペースメーカー挿入術を受ける患者の看護)	講義
8	心臓弁膜症患者の看護、フィジカルアセスメント	講義・演習
9	虚血性心疾患患者の看護 (心血管造影検査・経皮的冠状動脈形成術・冠状動脈バイパス術・心臓リハビリテーションを受ける患者の看護)	講義・演習
10	心不全患者の看護	講義・筆記試験
11	白血病患者の看護 (骨髄穿刺・骨髄生検・リンパ節生検を受ける患者の看護、化学療法・輸血療法・骨髄移植・造血幹細胞移植を受ける患者の看護)	講義・演習
12	悪性リンパ腫患者の看護	講義
13	貧血・多発性骨髄腫患者の看護	講義
14	免疫機能障害の看護 (播種性血管内凝固症候群 (DIC)、HIV/AIDS、日和見感染症、敗血症)	講義
15	免疫機能障害の看護 (アレルギー疾患)	講義・筆記試験

評価方法

筆記試験・レポートにて評価する

テキスト

成人看護学（呼吸器）、（循環器）、（血液・造血器）、（アレルギー・膠原病・感染症）

成人臨床看護Ⅱ

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能、疾病、検査、治療について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 内部環境調節機能・消化吸収機能・代謝機能は人間が生きていくために必要不可欠な機能であり、機能障害によってライフスタイルの変更を余儀なくされることも多い。また、成人期にある対象は社会的な役割も大きく、治療を継続しながら社会生活を営むことも少なくない。そこで、この科目では機能障害をもつ成人の特徴とこれらの機能障害が成人期にある対象の生活に及ぼす影響、機能障害に応じた看護の方法を理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	甲状腺機能亢進症患者の看護（抗ホルモン療法を受ける患者の看護）	講義
2	甲状腺機能低下症患者の看護（ホルモン補充療法を受ける患者の看護）	講義
3	糖尿病患者の看護（薬物療法を受ける患者の看護）	講義
4	糖尿病患者の看護（インスリン療法、簡易血糖測定）	講義・演習
5	脂質異常症・高尿酸血症患者の看護	講義・筆記試験
6	ネフローゼ症候群、ループス腎炎（全身性エリテマトーデス）患者の看護（腎生検を受ける患者の看護）	講義
7・8	腎不全患者の看護（透析療法を受ける患者の看護）	講義・演習
9	尿路結石患者の看護（静脈性腎孟造影を受ける患者の看護）膀胱がん患者の看護（膀胱鏡検査・尿路変向術を受ける患者の看護）	講義
10	腎盂腎炎患者の看護	講義・筆記試験
11	胃潰瘍・十二指腸潰瘍患者の看護（消化管内視鏡・造影検査を受ける患者の看護）	講義
12	潰瘍性大腸炎・クローン病患者の看護	講義
13	膵炎・肝炎・胆囊炎患者の看護（経皮経肝胆管ドレナージを受ける患者の看護）、イレウス患者の看護（イレウスチューブ挿入中の看護）	講義・演習
14	肝硬変患者の看護（肝生検・腹腔穿刺・食道靜脈瘤硬化療法を受ける患者の看護）	講義・演習
15	肝がん患者の看護（肝動脈塞栓術を受ける患者の看護）	講義・筆記試験

評価方法

筆記試験・レポートにて評価する

テキスト

成人看護学（内分泌・代謝）、（消化器）、（腎・泌尿器）

成人看護過程

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 事前学習課題をして、授業に臨むこと
- ・ 事例に関する人体の構造・機能、病態、検査、治療、看護の学習を復習して、授業に臨むこと
- ・ 健康障害が患者・家族の生活に及ぼす影響について考えておく

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 学習事例を通し、身体侵襲の高い治療を受けている急性期にある成人の看護、および看護過程展開の方法を理解する。
- ・ 学習事例を通し、機能障害をもつ対象の具体的な援助方法を考え、実践する。

教育目標との関連

- 1 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 2 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 4 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。
- 5 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	心筋梗塞患者の事例展開 全体像モデル・立体像モデルを用いて、対象特性を捉える	演習
2	心筋梗塞患者の事例展開 対象特性を捉え、生物体の必要条件・看護の方向性を明らかにする	演習
3	心筋梗塞患者の事例展開 生物体の必要条件から看護上の問題を明確にする	演習
4	心筋梗塞患者の事例展開 生物体の必要条件から看護上の問題を明確にする	演習
5	心筋梗塞患者の事例展開 看護計画を立案する	演習
6	心筋梗塞患者の事例：看護計画に沿った援助の実施（援助の実施・記録・報告） (持続的導尿管理・創傷の観察・中心静脈カテーテルの管理含む)	演習
7	心筋梗塞患者の事例：看護計画に沿った援助の実施（援助の実施・記録・報告） (持続的導尿管理・創傷の観察・中心静脈カテーテルの管理含む)	演習
8	直腸がんを患う対象の事例展開 全体像モデルを用いて、全人的に対象を見つめる	演習
9	直腸がんを患う対象の事例展開 対象の身体に起こっている現象を共有し理解を深める	演習
10	直腸がんを患う対象の事例展開 立体像を用いて現象の意味を看護的に意味付けし、ケースを捉える 医師の治療方針を解釈し、ケースの特徴から看護の方向性・生物体の必要条件を導く	演習
11	直腸がんを患う対象の事例展開 対象に生じている6つの対立を探り、看護上の問題を明確にする 看護上の問題と生物体の必要条件との繋がりを理解する	演習
12・13	直腸がんを患う対象の事例展開 看護計画を全体で共有し、演習課題に取り組む	演習
14・15	直腸がんを患う対象の事例展開 術前-咳嗽、ハフィング、術後-スクリービング、ドレーン管、ストーマの管理	発表

評価方法

筆記試験・レポートにて評価する

テキスト

成人看護学（循環器）、（消化器）、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論

専門分野

老年特性論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ 超高齢社会を迎える日本において、高齢者を取り巻く諸問題について関心を持ち、問題意識を持って授業に臨む
- ・ 高齢者に関わる法律の学習
- ・ 自分が居住する地域の高齢者福祉対策についての調べ学習

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 第3の人生を歩む老年期にある対象の特徴とその生活を理解する
- ・ 高齢者が地域で安心して、その人らしく生活できるための支援がわかる
- ・ 高齢者の持つ多様な価値観を知り、それを受容できる
- ・ 人生の終焉にある人々を支えるケアを知ることにより、豊かな人間性が育まれることを目指す
- ・ 人生の終焉にある人の心身の変化や、最後までその人らしい人生が送れるよう看護援助について考える
- ・ 自己の死生観について考える

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、他職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	老年看護を学ぶための基礎知識 高齢者を取り巻く環境 高齢者の定義 3側面の変化 発達課題	講義
2, 3	高齢者を取り巻く諸問題について理解する	プレゼンテーション
4, 5	老年期を生きる人々の特徴を知る 高齢者疑似体験 高齢者視点で生活を体験し知る *高齢者の歩行介助 杖歩行の介助のポイントと実際	演習
6, 7	高齢者の人権問題について理解する 老年看護におけるアドボカシー、ノーマライゼーション、ステイグマ 高齢者虐待の実態とその背景	講義・演習 グループワーク
8	高齢者看護における倫理 ディベート「身体拘束は必要か、不必要か」	講義・演習 グループワーク
9	エンド・オブ・ライフ、老年期の発達課題と死生観	講義 グループワーク
10, 11	高齢者の意思決定支援：安楽死、尊厳死、リビングウィル	講義 グループワーク
12	人生の終焉にある人とその家族の心の有り様を知り、最後までその人らしい人生 が送れるような看護援助について考える	講義 グループワーク
13	人生の終焉にある人とその家族を支える様々な職種について理解する	講義 グループワーク
14	人生の終焉にある人とその家族への援助、全人的苦痛への支援	講義 グループワーク
15	老年看護の役割	講義

評価方法

事前課題、数回のレポート課題、グループ発表、グループ課題にて総合的に評価する

テキスト

老年看護学、エンド・オブ・ライフケア

専門分野

老年臨床看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- ・ 高齢者の加齢に伴う身体的変化と精神的変化について事前学習をして授業に臨む
- ・ 自分が知っている高齢者の起床から就寝までの一日の動きについて調べて授業に臨む
- ・ 老年看護学第5章A～Fまでを読んでから授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

加齢の経験がなく、また高齢者と生活を共にする機会が少ない現代の若者は高齢者の看護方法を理解することは難しい。そこで自宅での生活を前提とした事例を通してグループワークと演習を通して高齢者看護の視点と考え方を皆で考えて学ぶ機会とする。それを踏まえて疾患を持った高齢者の看護方法へと順序性を持って学習を進めることで高齢者の看護方法を学ぶ機会とする。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に引き出す看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、他職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1, 2	脳の手術を受ける高齢患者の術前・術後看護の特徴（アセスメント）	講義
3	高次脳機能障害を持つ高齢患者（成人含む）への看護	講義・演習
4	中枢神経障害により生活援助・支援が必要な高齢患者（成人含む）の看護	講義・演習
5, 6	全身の支持組織に障害のある患者の術前、術後の看護	講義
7, 8	運動機能障害が日常生活に及ぼす影響と看護	講義・演習
9	認知症の人の理解と対応の基本	講義・演習
10	認知症ケアの基本的技術と実践上の注意点	講義・演習
11	高齢者に特有な精神症状の看護（うつ病・せん妄）	講義・演習
12	褥瘡の発生機序とリスクアセスメント 褥瘡予防方法（ポジショニング）	講義・演習
13	スキンケア 予防と看護 ストーマケアの基本	講義・演習
14, 15	嚥下機能に障害を持つ患者の看護 誤嚥予防：直接・間接訓練法、麻痺のある患者への対応、誤嚥発生時の対応	講義・演習

評価方法

グループワーク資料、ロールプレイ演習内容・筆記試験にて総合的に評価する

テキスト

老年看護学 老年看護病態・疾患論

老年援助技術

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 高齢者の加齢に伴う身体的変化と精神的変化について事前学習をして授業に臨む
- ・ 自分が知っている高齢者の起床から就寝までの一日の動きについて調べて授業に臨む
- ・ 老年看護学第5章A～Fまでを読んでから授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

加齢の経験がなく、また高齢者と生活を共にする機会が少ない現代の若者は高齢者の看護方法を理解することは難しい。そこで自宅での生活を前提とした事例を通してグループワークと演習を通して高齢者看護の視点と考え方を皆で考えて学ぶ機会とする。それを踏まえて疾患を持った高齢者の看護方法へと順序性を持って学習を進めることで高齢者の看護方法を学ぶ機会とする。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に引き出す看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、他職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	高齢者の持てる力を引き出す看護 日常生活における基本動作と自立生活拡大への援助を考える	講義・演習
2	日常生活動作に問題を持つ高齢者のADL援助の一例 清潔に問題を持つ高齢者のADL援助を考える	講義・演習
3	日常生活動作に問題を持つ高齢者のADL援助の一例 事例を基に排泄パターン・問題を持つ高齢者のADL援助を考える	講義・演習
4	コミュニケーションが困難な高齢者の看護	講義・演習
5	転倒リスクの高い高齢者の看護	講義・演習
6	廃用症候群予防のための看護 身体的・精神的・社会的側面からの看護	講義・演習
7	薬物療法を受ける高齢者への看護	講義・演習
8	高齢者を取り巻く環境（調整）と、多職種との連携	講義・演習

評価方法

グループワーク資料、ロールプレイ演習内容・筆記試験にて総合的に評価する

テキスト

老年看護学 老年看護病態・疾患論

老年看護過程

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- ・認知症の種類について事前学習し授業に臨む
- ・認知症の主な症状について事前学習し授業に臨む
- ・認知症者を支える社会福祉制度について事前学習し授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

- ・高齢者特有の症状に伴う苦痛を理解し、個別性のある看護の方向性と看護計画が立案できる
- ・対象を支える重要他者が抱える苦痛について理解し、家族への支援の重要性について考える

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
2. 対象と対象を支える人が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に發揮される看護援助ができる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	認知症の人の理解と対応の基本 高齢者に特有な精神症状の看護（うつ病・せん妄）	講義・演習
2	認知症ケアの基本的技術と実践上の注意点	講義・演習
3	脱水で入院した認知症高齢者 事例患者の理解（3側面から理解する）	講義
4	脱水で入院した認知症高齢者 ・全体像モデル、立体像モデルを用いて対象特性を描く ・対象特性および看護の方向性を明確化する	演習 グループワーク
5. 6	脱水で入院した認知症高齢者 アセスメント：看護上の問題を明確化し、看護目標を立案する	演習 グループワーク
7	脱水で入院した認知症高齢者 看護計画を立案する	演習
8	誤嚥性肺炎が再燃した高齢患者 事例患者の理解（3側面から理解する）	講義
9	誤嚥性肺炎が再燃した高齢患者 ・全体像モデル、立体像モデルを用いて対象特性を描く ・対象特性および看護の方向性を明確化する	講義・演習
10. 11	誤嚥性肺炎が再燃した高齢患者 アセスメント：看護上の問題を明確化し、看護目標を立案する	演習 グループワーク
12	誤嚥性肺炎が再燃した高齢患者 看護計画を立案する	演習 グループワーク
13	誤嚥性肺炎で入院中の認知症患者の看護	
14	誤嚥性肺炎で入院中の認知症患者の看護の実際	
15	誤嚥性肺炎で入院中の認知症患者の看護の実際	グループ発表

評価方法

提出物、演習内容にて評価する

テキスト

老年看護学

小児特性論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ 小児期の各発達段階についてテキストを読み授業に臨む
- ・ 小児看護の特徴について学習し臨む

科目全体のねらい・授業目標

小児看護は生命の発生から始まり、第二次性徴が終わるまで、成人期への移行期までを連続性のある看の対象者としてとらえる。また子どもを取り巻く社会的背景や歴史も理解しながら、各時期のニーズに応じた看護を考えることができる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	小児看護の専門性・機能・役割を理解する	講義
2	小児医療、小児看護の歴史を法律から読み解く	講義
3	小児を取り巻く社会の変化（出生数、女性の社会進出など）と家族の役割が理解できる	講義
4	子どもの権利と人権の変遷を倫理に基づき考える	講義・演習
5	愛着の発達 事例から学ぶ虐待の実態と背景	講義・演習
6	成長発達の原則と影響因子、成長発達に関する評価ができる	講義
7	各発達段階の成長発達をグループワークでまとめ、学びを深める	演習
8	各発達段階の成長発達をグループワークでまとめ、発表準備をする	演習
9	各発達段階のまとめを発表し、クラス全体で学びを共有する	演習
10	各発達段階ごとの成長発達と看護、安全と事故防止を考える	講義・演習
11	母子保健の動向、学校保健・予防接種の実際が理解できる	講義
12	小児医療の現実から学ぶ小児医療・看護の課題、小児の臓器移植	講義・演習
13	小児各期の栄養の特徴、離乳食の進め方が理解できる	講義
14	保育園での幼児期の生活体験を通して子どもの成長を知る	演習
15	評価	筆記試験

評価方法

筆記試験 グループワーク参加状況 演習レポートにて評価する

テキスト

小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 育児の生理学

小児疾病論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 発達途上にある小児期の身体的特徴・発達を学習し授業に臨む
- ・ 小児期特有の疾患（熱性けいれん、喘息、川崎病、ネフローゼ症候群）について学習し質問をもって授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

小児期にある対象の主な健康障害を理解することで、未熟な各臓器が侵され全身に及ぼす影響を知る。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
6. 社会情勢に目を向け、自己の課題を追求し続けることができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	発展途上にある小児疾患の特徴、概要が理解できる	講義
2	小児期特有の感染症の特徴と免疫の発達が理解できる	講義
3	先天異常、新生児の疾患の特徴が理解できる	講義
4	小児期の脳の発達と働きの障害（髄膜炎、熱性けいれんなど）について理解できる	講義
5	小児期特有の呼吸器障害（咽頭炎、喘息など）循環器障害（先天性心疾患、川崎病など）の疾患について理解できる	講義
6	小児期特有の消化器疾患（急性胃腸炎など）、腎・泌尿器疾患（ネフローゼ症候群など）の疾患について理解できる	講義
7	小児期に発生頻度が高いアレルギーの分類と発生機序について理解できる	講義
8	評価	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

小児臨床看護各論

小児臨床看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- ・ 小児期の成長・発達について学習し授業に臨む
- ・ 熱性けいれん、川崎病について学習し、看護展開に活用できるようにする

科目全体のねらい・授業目標

小児の健康段階、健康障害に応じた特徴と看護を理解する。また対象となる子どもがそれらの看護を受けることによる精神面の理解、家族との相互作用を考えながら看護実践につなげることができる

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を引き出す看護援助ができる
6. 社会情勢に目を向け、自己の課題を追求し続けることができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	急性期症状（発熱、脱水、けいれんなど）を示す子どもの特徴と家族看護が理解できる	講義・演習
2	慢性期疾患（川崎病など）を抱えた子どもの特徴と家族看護が理解できる	講義・演習
3	終末期にある子どもの特徴と家族看護、子どもの死の概念、死に対する子どもの反応と看護が理解できる	講義・演習
4	低出生体重児・NICU・GCU看護の特徴と家族看護が理解できる	講義
5	小児外来看護の特徴と家族看護・退院支援、長期的ケアを必要とする患児の特徴と看護のポイントが理解できる	講義
6	小児救急看護の実際、BLSの実技から小児に対する心肺蘇生の実際を学ぶ	演習
7	小児救急看護の実際、BLSの実技から小児に対する心肺蘇生の実際を学ぶ	演習
8	チャイルドビジョンを用いた子どもの物の見え方から子どもの心理状態を学ぶ	講義
9・10	症状別にホームケアを考え、家族への対応を考える 発表をすることで学びを共有する	演習
11	バイタルサインの特殊性と測定方法が実施できる 子どものバイタルサインの正常と身体的アセスメントのつながりが理解できる	講義
12・13	プリパレーションとディストラクションにおける看護の役割を学ぶ	講義
14・15	各発達段階にある子どもの対するプリパレーション、ディストラクションの実際をロールプレイから学ぶ	演習

評価方法

筆記試験 レポートにて評価する

テキスト

小児臨床看護各論、 小児看護学概論・小児臨床看護総論

小児発達段階別看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 小児の成長・発達を再確認し、熱性けいれん・川崎病・ネフローゼ症候群についてまとめる。
- ・ 小児看護においての注意点や特有の看護を調べ授業に臨む。

科目全体のねらい・授業目標

子どもは家族に守られ、家族との相互作用の中で人間関係を築き生活習慣を確立し、社会性を身に付けていく。その背景の中にある1人の子どもの成長を通して、各成長発達段階に起こりやすい疾患を事例展開から学ぶ。その際子どもを取り囲む家族の状況や精神面も同時に理解することができる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を引き出す看護援助ができる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	疾患を抱える子どもと、その子どもを取り囲む家族が抱える思いを知り、看護を考えることができる	講義
2	低出生体重児で生まれた子どもと家族の看護を考えることができる	講義
3. 4	乳児期に発生した熱性けいれんについての看護を考える 疾患の特徴や発熱とけいれんのつながりなどを理解し、その子どもと家族に対する看護を考えることができる。また特徴的な手技が理解できる。（経管栄養、採尿パックの取り扱い、オムツ交換、点鼻、点耳等）	講義・演習
5	乳児期の対象に対する看護をロールプレイで共有し実践を学ぶことができる	演習
6. 7	幼児期に発生した川崎病についての看護を考える 疾患の特徴や症状などを理解し、その子どもと家族・兄弟に対する看護を考えることができる	講義・演習
8	幼児期の対象に対する看護をロールプレイで共有し実践を学ぶことができる	演習
9. 10	学童期に発生したネフローゼ症候群についての看護を考える 疾患の特徴や浮腫・薬物治療による影響などを理解し、その子どもと家族・兄弟に対する看護を考えることができる	演習
11	学童期の対象に対する看護をロールプレイで共有し実践を学ぶことができる	演習
12. 13	思春期に多い不登校について、特徴や背景を学び、その子どもと家族に対する看護を考えることができる	講義・演習
14・15	障害を持つ児とその家族の生活を支える看護を学ぶ	講義

評価方法

課題、レポート、グループワーク参加状況、凝縮ポートフォリオに評価する

テキスト

小児臨床看護総論、各論

女性特性論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- リプロダクティブヘルスについて調べ、関連する問題の記事や資料を収集する。
- 基礎体温測定（男子学生は、体温測定）を各自に課題として設定する。
- 女性のライフサイクル各期において起こりやすい健康問題に関する自治体の取り組みを調べる。

科目全体のねらい・授業目標

ウイメンズヘルス（リプロダクティブヘルス/ライフ）の概念に基づいて、母性看護の基盤となる概念や、ライフサイクル各期の健康と保持・増進、疾病の予防のための知識を理解し、看護援助を実践するための考え方や方法を学ぶ。時代と共に多様化する価値観やライフスタイルをふまえ、母子保健統計なども含んだ社会背景を考慮し、女性の健康問題や次世代の健全育成に必要な看護について考える。

教育目標との関連

- 母性看護の基盤となる概念を理解する。
- 母性の対象ととりまく保健・医療・福祉の変遷や現状を理解する。
- 女性のライフサイクル各期において起こりやすい健康問題を理解し、母性看護の役割を理解する。
- 生命の尊厳と母性看護に関わる倫理について考え、自己の考えを持つことができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	母性看護の視点；母性とは（父性・親性），母性看護の主要な概念	講義・演習
2	母性看護学の基本的な知識；セクシャリティ、リプロダクティブヘルス・ライフ	講義・演習
3	リプロダクティブヘルス/ライフに関する倫理；生殖をめぐる倫理、災害看護と母性	講義・演習
4	リプロダクティブヘルスケア；人工妊娠中絶、喫煙女性、DV	講義・演習
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状；法規、統計	講義・演習
6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状；地域における子育て支援	講義・演習
7	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状；就労と母性	講義・演習
8	思春期にある人々の看護；思春期の特徴と健康問題	講義・演習
9	成熟期にある人々の看護；成熟期の特徴と健康問題	講義・演習
10	更年期、老年期にある人々の看護；更年期、老年期の特徴と健康問題	講義・演習
11	ライフサイクル各期における保健指導；性教育、	講義・演習
12	ライフサイクル各期における保健指導；更年期障害	講義・演習
13	ライフサイクル各期における保健指導；老年期の保健指導	講義・演習
14	母性看護における倫理；ディベート	講義・演習
15	筆記試験	評価

評価方法

筆記試験、演習参加状況にて評価する

テキスト

「母性看護概論」「母子保健の主たる統計」

周産期の医療

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 講義該当部分の「母性看護学各論」のテキストを学習して授業に臨む。
- ・ 基礎体温表をあらかじめ作成してから臨む。

科目全体のねらい・授業目標

母性看護を行うために必要な知識の修得を目的として、正常な妊娠・分娩の経過および妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理について学習する。また、マタニティサイクルにおけるリスクや異常、その診断や医学的対応、管理の方法について学習する。

教育目標との関連

- ・ 妊娠・分娩・産褥各期における母子の状態を理解する。
- ・ 妊娠・分娩・産褥各期における正常と異常の判断ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	妊娠の生理、胎児の発育とその生理；妊娠の成立、胎盤の形成、羊水の機能	講義
2	妊娠経過の診断；胎児発育と健康状態の診断 妊婦健康診査；妊娠経過に伴う全身状態のアセスメント	講義
3	妊娠中のリスク；妊娠期の感染症、妊娠疾患、妊娠持続期間の異常	講義
4	産婦と胎児の健康状態；胎児に及ぼす影響、産痛の機序	講義
5	分娩の異常；産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害	講義
6	産褥期の生理 乳汁分泌の生理；身体的变化、退行性变化、進行性变化	講義
7	産褥の異常、新生児の生理；子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、精神障害	講義
8	筆記試験	評価

評価方法

筆記試験

テキスト

「母性看護学各論」

女性の健康と看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 講義該当部分のテキストを学習してから授業に臨む。
- ・ 講義該当部分の母子手帳の内容を理解してから授業に臨む。
- ・ 「女性の健康と看護」で学んだ知識を基に講義するので、学んだことを整理しておく。

科目全体のねらい・授業目標

マタニティサイクルの妊娠期・分娩期の正常な経過と看護、また起こりうる異常やその看護についても理解する。妊婦とその家族を一つの単位としてとらえ、妊産婦だけでなく、周りのパートナーや家族が望む妊娠・出産に向けての看護援助について学習する。

教育目標との関連

- ・ 妊娠・分娩・産褥各期の対象に応じた看護を展開するための基礎知識を理解する。
- ・ 妊娠・分娩期のパートナーや家族を含めた看護援助について理解する。
- ・ 正常から逸脱した妊婦・産婦の看護について理解する。
- ・ 母性に起こりやすい生殖器の疾病の予防や看護について理解する。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	妊娠期の心理・社会的変化 ・妊婦と家族の看護	講義
2	親になるための準備教育	講義
3	ハイリスク妊婦の看護	講義
4	産婦の心理・社会的変化・産婦と家族の看護	講義
5	分娩各期の看護	講義
6	異常産婦の看護	講義
7	褥婦の心理・社会的変化・褥婦と家族の看護	講義
8	施設退院後の看護	講義
9	異常褥婦の看護	講義
10	新生児の看護	講義
11	異常新生児の看護	講義
12	感染症の患者の看護	講義
13	腫瘍のある患者の看護	講義
14	子宮内膜症・不妊症の患者の看護	講義
15	評 価	筆記試験

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

「母性看護学各論」 医学書院

周産期の看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 講義該当範囲のテキストを学習し、事前学習課題を実施してから臨む。
- ・ 自分の地域の母子保健事業についての資料を収集して臨む。
- ・ 妊婦、産婦、褥婦の動画を自己で検索して視聴してから臨む。

科目全体のねらい・授業目標

健全な母性愛を育みながら、育児ができるための援助の実際や、新しい家族が形成されていく過程を学ぶ。また、看護過程では、プロジェクト学習を取り入れ、ポートフォリオを作成しながら展開をする。母性看護方法については演習を行い、正常な経過だけでなく、正常から逸脱した場合の看護についても学習する。

教育目標との関連

- ・ マタニティサイクルにおける身体・精神・社会的変化を理解する。
- ・ 新生児の特徴を理解し、胎外生活適応の看護の役割や技術の留意点を理解する。
- ・ 産褥期の愛着形成や母子相互作用を理解する。
- ・ 産後の地域における、継続看護の必要性や重要性を理解する。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	妊婦における看護技術；内診の介助・妊婦健診の介助（妊婦の計測）	講義・演習
2	妊婦における看護技術；レオポルド触診法・ノンストレステスト	講義・演習
3	産婦における看護技術；陣痛の観察・産痛緩和のケア	講義・演習
4	産婦における看護技術；産婦の基礎体力の保持や生活に対するケア	講義・演習
5	褥婦における看護技術；褥婦の観察(腹囲、子宮底測定、乳房の観察)	講義・演習
6	褥婦における看護技術；退行性変化への支援（産褥体操、排泄への援助）	講義・演習
7	褥婦における看護技術；進行性変化への支援（乳頭マッサージ、育児指導）	講義・演習
8	褥婦における看護技術；進行性変化への支援（退院後の育児指導）	講義・演習
9	褥婦における看護技術；家族を含めた退院支援、帝王切開術の褥婦の看護	講義・演習
10	新生児における看護技術；（日齢に応じた新生児の観察、保温、転倒転落）	講義・演習
11	新生児における看護技術；（沐浴、瓶哺乳、排気の方法）	講義・演習
12	産褥期・新生児期の看護過程	講義・演習
13	産褥期・新生児期の看護過程	講義・演習
14	産褥期・新生児期の看護過程	講義・演習
15	評価	筆記試験

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

「母性看護学各論」

精神特性論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期・後期	

事前学習内容

- ・ エリクソンの自我アイデンティティの発達理論について学習し、理解して臨む。
- ・ ボウルビーの愛着理論について学習し、理解して臨む。
- ・ 精神保健福祉の歴史について学習し、質問内容をリストアップして臨む。
- ・ 地域移行支援・地域生活支援について学習して臨む。

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 精神の健康について理解し、精神の健康に影響する因子について考え述べることができる。
- ・ ライフサイクルにおける心の発達と健康な状態を学び、精神看護の役割を理解する。
- ・ 精神保健福祉の治療と歴史について理解する。
- ・ 現在の精神看護の役割と方向性について知り、精神看護の今後の課題が説明できる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に發揮される看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	精神の健康とは	講義・演習
2	心身の健康に及ぼすストレスの影響	講義・演習
3	心のはたらきと人格の形成	講義・演習
4	心の理論	講義・演習
5	ライフサイクルとアイデンティティーエリクソンの漸成的発達理論	講義・演習
6	自我の防衛機制	講義・演習
7	ライフサイクルとメンタルヘルス	講義・演習
8	精神看護学とは何か 病気の発生要因	講義
9	精神保健福祉の治療と歴史	講義
10	精神保健福祉に関する法律と施策	講義
11	精神看護：リエゾン看護、国際的視点で治療と看護を検討する	講義
12	精神医療のあり方と危機介入について	講義
13	現代社会とこころ：非日常、闘病期に発生する心の問題	講義
14	精神看護の方向性・役割と医療構造	講義
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験、事前課題にて評価する

テキスト

精神看護の基礎 精神保健福祉 ナースが見る病気 専門分野

精神疾病論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容（講義進度に沿って学習し、知識を持って授業に臨む）

- ・ 統合失調症の診断と治療・症状について学習し、質問内容をリストアップする。
- ・ 双極性障害の診断と治療・症状について学習し、質問内容をリストアップする。
- ・ 心的外傷後ストレス障害（PTSD）について学習し、質問内容をリストアップする。
- ・ その他授業内容を事前に確認・学習し、質問できる状態で、授業に臨む。

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 精神看護の領域が、精神障がいの予防・治療ならびに精神障がい者の社会参加を促進する活動から、人々の精神的健康を保持・向上させるための活動まで幅広い領域にわたることを理解する。
- ・ 精神障がいに関する知識を学習することにより、保健医療福祉の各側面に配慮しつつ、QOL（Quality of Life）を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会参加、在宅医療、介護を含む）に資する精神看護の課題について考察する。
 - ① 精神保健福祉医療サービス利用者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、全人的に対応できる。
 - ② 援助チームの構成員としての看護師の役割を理解し、精神保健医療福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調できる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に發揮される看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	総論：精神症状、精神疾患の分類 ICD10;F2：統合失調症及び関連疾患の診断	講義
2	ICD10;F2：統合失調症および関連疾患の治療、心理教育的アプローチ	講義
3	ICD10;F3：気分（感情）障害	講義
4	ICD10;F4：神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	講義
5	ICD10;F5：生理的障害（摂食障害、睡眠障害他） および身体的要因に関連した行動症候群 ICD10;F6：成人のパーソナリティおよび行動の障害	講義
6	ICD10;F7：知的障害 ICD10;F8：心理的発達の障害 ICD10;F9：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	講義
7	ICD10;F0：器質性精神障害、認知症、てんかん（G40） ICD10;F1：精神作用物質による精神および行動の障害（依存症候群他）	講義
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験、課題提出物にて評価する

テキスト

精神看護の基礎 精神看護の展開 精神保健福祉

専門分野

精神臨床看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前・後期	

事前学習内容

- 精神特性論で学んだ、精神保健福祉制度を理解して臨む。
- 精神障害をもつ対象者との、コミュニケーション方法について学習する。
- 統合失調症の症状と観察のポイント、看護について学習して授業に臨む。
- うつ病の症状と観察のポイント、看護について学習して授業に臨む。

科目全体のねらい・授業目標

- 精神障がいをもつ対象者の治療過程に応じた看護について理解する。
- 精神障がいをもつ対象者が、社会生活を送るために必要な看護について理解する。
- 精神障がいをもつ対象者を、家族や地域で支えるための支援的関わりを理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に発揮される看護援助ができる。
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	精神看護総論 精神障害者の捉え方	講義
2	自尊感情について 自己効力感と自尊感情の違い	講義
3	入院治療の意味 施設の特徴・入院形態・ステイグラフ	講義・演習
4	入院治療の意味 精神科病院の特徴 隔離室・身体拘束について	講義・演習
5	統合失調症を患う患者を全人的に理解する	DVD視聴
6	精神科救急・急性期看護の展開 薬物療法と看護	講義・演習
7	精神科の現状 慢性期の症状と看護 地域移行支援 社会資源の活用	講義・演習
8	地域における生活支援の方法と実際	講義・DVD視聴
9	リスクマネジメントの考え方と行動制限	講義・演習
10	身体拘束の実技体験	演習
11	チームビルディングと看護	講義
12	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 リエゾンナースの役割	講義・演習
13	災害時のメンタルヘルスと看護 災害時における心のケア	講義
14	看護実践における倫理 GW	講義・演習
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

精神看護の展開

精神看護過程

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 統合失調症の病態と症状について学習し授業に臨む。
- ・ 単極性気分障害（うつ病）の病態と症状について学習し授業に臨む。
- ・ SSTの目的、方法について学習し授業に臨む。

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 2つの事例（統合失調症・単極性気分障害）患者の対象特性を捉え、疾患・治療の知識を活用しながら、事例の個別性に応じたアセスメント・計画を表現するとともに、看護実践を考える。
- ・ SSTの目的や特徴について理解し、述べることができる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を最大限に發揮される看護援助ができる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携することができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	統合失調症 導入・理解	講義・DVD視聴
2	統合失調症の事例を用いて、対象特性を捉える。	講義・演習
3	統合失調症の事例を用いて、必要条件・看護の方向性を考える	演習
4	統合失調症の事例で、看護上の問題を明確にし看護計画を考える	演習
5	統合失調症 ロールプレイング 患者への関りについて考え、実施する	演習
6	統合失調症 急性期・慢性期の関わりについてDVDを視聴し振り返る	演習・DVD視聴
7	うつを患う人の看護 導入・理解	講義
8	単極性気分障害の事例を用いて、対象特性を捉える。	演習
9	単極性気分障害の事例を用いて、必要条件・看護の方向性を考える。	演習
10	単極性気分障害の事例で、看護上の問題を明確にし看護計画を考える。	演習
11	単極性気分障害のDVDを視聴し、患者の理解を深める	演習
12	単極性気分障害 ロールプレイング 自身の計画を基に考え、実施する	演習
13	単極性気分障害 凝縮ポートフォリオ作成 自己の関わりを通して学びを深める	演習
14	SSTの定義と概要	講義
15	SST-基本モデルの実際	講義

評価方法

事例課題、ロールプレイングにて評価する

テキスト

精神看護の基礎 精神看護の展開 ナースが見る人体 ナースが見る病気

医療安全

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	3年次 前期	

事前学習内容

- 実際に起きた医療事故の事例と事故が起きた背景を調べておく
- 実習などの場面で安全について気をつけた自身の体験をあげておく

科目全体のねらい・授業目標

- 医療事故予防及び安全の基盤となる考え方・分析方法・事故発生時の対処法を理解できる
- ヒューマンエラーは誰にも起こり、だからこそ事故を起こさない対策の必要性を理解できる

教育目標との関連

3、看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる

6、社会情勢に目を向けたうえで、自己の課題を追求し続けることができる

7、集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	医療安全と看護の理念	講義
2	医療安全の取り組みの背景と経緯	講義
3	事故発生のメカニズム(ヒューマンエラー・エラーを誘発しやすい環境)	講義・演習
4	リスクマネジメント(事故分析・事故対策)	講義
5	リスクマネジメント(事故分析・事故対策)	演習
6	チームで取り組む安全文化の醸成	講義
7	看護業務に関連する事故と安全対策	演習
8	看護業務に関連する事故と安全対策	演習
9	医療従事者のリスクと安全対策	講義・演習
10	看護学生の実習と安全 事故予防と事故発生時の対応	講義・演習
11	看護学生の実習と安全 習得すべき看護技術のリスクと安全	講義・演習
12	感染に関する医療安全① 感染症と法律	講義
13	感染に関する医療安全② 院内感染のメカニズムと感染予防	講義
14	医療機器の安全管理 医療機器の取り扱い	講義・演習
15	病院での医療安全の取り組みの実際/テスト	講義

評価方法

筆記試験、レポートにて評価する

テキスト

「医療安全」 メディカ出版

国際・災害看護

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・国際的な健康問題とその背景について自己学習し授業に臨む
- ・国際看護の概要について自己学習し授業に臨む
- ・日本の自然災害、これまでに発生した広域災害について自己学習し授業に臨む
- ・災害サイクルについて自己学習し授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

- ・看護師が活躍する場は病院・地域にとどまらず全世界規模にまで広がりをみせている。多種多様な価値観・宗教観を持った対象に求められる看護の姿を学び、関心を高めてほしい
- ・世界的に見ても広域災害の頻度が高い日本において、災害時における看護師の担う役割は大きい極限の状態でいかに自分と対象の生命・生活を守り、看護を実践するかを学ぶ。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を引き出す看護援助ができる
6. 社会情勢に目を向け、自己の課題を追求し続けることができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護師の活躍の場の広がりと看護師の国際的な使命	講義
2	世界規模で活躍する看護組織の変遷と実際	講義・演習
3	外国籍入院者など多様性に富む対象へ看護	講義・演習
4	世界に存在する健康問題と看護活動の実際①	講義・演習
5	世界に存在する健康問題と看護活動の実際② テスト	講義・テスト
6	災害看護とは 災害サイクルについて	講義
7	CSCATTの実際とD-MATが実際に活躍する現場について	講義
8	トリアージの実際①	講義・演習
9	トリアージの実際②災害現場での救急看護活動	演習
10	災害大国日本で看護師として働くということ	講義・演習
11	災害看護に関するロールプレイ	演習
12	災害時においていかに自身の命を守るか考え実践する①工作	グループワーク
13	災害時においていかに自身の命を守るか考え実践する②演習	グループワーク
14・15	江南厚生病院広域災害訓練に模擬患者として参加し、要救援者の実際を体験する	演習 レポート課題

評価方法

筆記試験、レポートにて評価する

テキスト

国際看護・災害看護（医学書院）

看護管理

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	3年次 前期	

事前学習内容

- ・ 病院の組織・看護体制・看護業務と他職種連携について学習し、授業に臨む
- ・ 医療安全対策と看護師の責務について事前学習し授業に臨む
- ・ 医療報酬の仕組みと看護サービスの関係について事前学習し授業に臨む

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 看護師が主に活躍する病院の概要を学び、看護師が果たす役割と責務について学ぶ
- ・ 法と看護の関係性について学ぶ
- ・ 病院経営が地域医療を守ることについて学ぶ

教育目標との関連

- 3、看護師としての責務を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
- 5、地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる
- 7、地域の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護職の社会的な背景について知る	講義・演習
2	日本の医療制度と病院経営・診療報酬について知る	講義・演習
3	看護必要度・看護提供システムについて知る	講義・演習
4	病院組織における看護部組織・看護体制・看護業務について知る	講義・演習
5	看護活動の実際・日常業務・看護評価、看護管理の基礎知識を知る	講義・演習
6	看護組織とマネジメントについて知る	講義・演習
7	病院の新人教育制度・プリセプターの概要・クリニカルラダーについて	講義・演習
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

看護管理

臨床看護総合

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	3年次 後期	

事前学習内容

- ・ シミュレーション演習を実施するため、事例を理解するために必要な知識を確認しておく
- ・ フィジカルイグザミネーションの技術を復習しておく
- ・ フィジカルアセスメントの意義と目的を復習しておく

科目全体のねらい・授業目標

- ・ 「気づき」を「解釈」し看護実践につなげる思考過程が理解できる
- ・ 臨床判断を行うための基礎的能力を養う
- ・ 生体を系統的にとらえ、対象に合わせた看護技術を考え実践できる

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
4. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を引き出す看護援助ができる
7. 集団の中で人間関係を形成しつつ、自己の役割を果たすことができる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	フィジカルアセスメントの活用：シミュレーションの中でフィジカルアセスメントをして患者の状態を把握する。患者の状態を把握し対応、報告する。	講義・演習
2		
3	危険を予測した対応：病室を訪れ患者の状態を把握、状況確認を行い危険を予測し、対応する	講義・演習
4		
5	多重課題：危険性と緊急性からフィジカルアセスメントを活用し、優先順位を考えて対応する	講義・演習
6		
7	災害救護：フィジカルアセスメントを活用し、トリアージ、一時救護を実施する看護技術の応用	講義・演習
8		

評価方法

パフォーマンス評価

テキスト

フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 臨床看護総論 医学書院